議事日程 (第4号)

令和3年9月24日 午前10時00分開議

日程第 1	認定第 1 号	令和2年度中間市一般会計歳入歳出決算認定について
日程第 2	認定第 2 号	令和2年度中間市特別会計国民健康保険事業歳入歳出決算認定について
日程第 3	認定第 3 号	令和2年度中間市住宅新築資金等特別会計歳入歳出決算認定について
日程第 4	認定第 4 号	令和2年度中間市地域下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第 5	認定第 5 号	令和2年度中間市公共用地先行取得特別会計歳入歳出決算認定について
日程第 6	認定第 6 号	令和2年度中間市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第 7	認定第 7 号	令和2年度中間市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
日程第 8	認定第 8 号	令和2年度中間市公共下水道事業会計利益の処分及び決算認定について
日程第 9	認定第 9 号	令和2年度中間市水道事業会計利益の処分及び決算認定について
日程第 10	認定第 10 号	令和2年度中間市病院事業会計決算認定について
(日程第 1～日程第 10 委員長報告・質疑・討論・採決)
日程第 11	第 37 号議案	令和3年度中間市一般会計補正予算 (第5号)
日程第 12	第 38 号議案	令和3年度中間市介護保険事業特別会計補正予算 (第1号)
日程第 13	第 52 号議案	令和3年度中間市一般会計補正予算 (第6号)
(日程第 11～日程第 13 委員長報告・質疑・討論・採決)
日程第 14	第 39 号議案	中間市手数料条例の一部を改正する条例
(日程第 14 委員長報告・質疑・討論・採決)
日程第 15	第 40 号議案	中間市地域振興整備基金条例を廃止する条例
日程第 16	第 41 号議案	子孫にのこすふるさとづくり基金条例を廃止する条例

- 日程第17 第42号議案 中間市福祉対策積立基金条例を廃止する条例
- 日程第18 第43号議案 中間市ふるさと水と土保全基金条例を廃止する条例
- 日程第19 第44号議案 中間市住宅基金条例を廃止する条例
- 日程第20 第45号議案 中間市都市計画事業等積立基金条例を廃止する条例
- 日程第21 第46号議案 中間市消防施設整備積立基金条例を廃止する条例
- 日程第22 第47号議案 中間市まなびの森基金条例を廃止する条例
- 日程第23 第48号議案 中間市基金の運用の特例に関する条例を廃止する条例
(日程第15～日程第23 委員長報告・質疑・討論・採決)
- 日程第24 第49号議案 中間市公共施設整備等基金条例
(日程第24 委員長報告・質疑・討論・採決)
- 日程第25 第50号議案 中鶴公営住宅(1期)新築工事(建築工事)請負契約について
(日程第25 委員長報告・質疑・討論・採決)
- 日程第26 第51号議案 損害賠償の額を定め、和解することについて
(日程第26 委員長報告・質疑・討論・採決)
- 日程第27 議員提出議案 中間市議会ハラスメント根絶条例
第5号
(日程第27 提案理由説明・質疑・討論・採決)
- 日程第28 意見書案 出産育児一時金の増額を求める意見書
第7号
- 日程第29 意見書案 選択的夫婦別姓制度の法制化に向けた議論を求める意見書
第8号
(日程第28～日程第29 提案理由説明・質疑・討論・採決)
- 日程第30 意見書案 新型コロナに対する国民健康保険の傷病手当金の支給拡充を
第9号 国の制度として求める意見書
(日程第30 提案理由説明・質疑・討論・採決)
- 日程第31 意見書案 沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋め立てに使用しないよ
第10号 う求める意見書
(日程第31 提案理由説明・質疑・討論・採決)
- 日程第32 意見書案 コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を
第11号 求める意見書
(日程第32 提案理由説明省略・質疑・討論・採決)

日程第33 会議録署名議員の指名

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（16名）

1 番 小林 信一君	2 番 堀田 克也君
3 番 田口 善大君	4 番 蛙田 忠行君
5 番 柴田 芳信君	6 番 田口 澄雄君
7 番 山本 慎悟君	8 番 安田 明美君
9 番 掛田るみ子君	10 番 中尾 淳子君
11 番 阿部伊知雄君	12 番 大和 永治君
13 番 柴田 広辞君	14 番 下川 俊秀君
15 番 井上 太一君	16 番 中野 勝寛君

欠席議員（0名）

欠 員（0名）

説明のため出席した者の職氏名

市長 ……………	福田 浩君	副市長 ……………	白尾 啓介君
教育長 ……………	片平 慎一君	総務部長 ……………	末廣 勝彦君
市民部長 ……………	安徳 保君	保健福祉部長 ……	藤田 宜久君
教育部長 ……………	船津喜久男君	建設産業部長 ……	篠田 耕一君
環境上下水道部長 ……………			村上 智裕君
消防長 ……………	林 誠志君	財政課長 ……………	蔵元 洋一君
市立病院清算事務室長 ……………			久場康三郎君
介護保険課長 ……	冷牟田 均君	都市計画課長 ……	白石 和也君

事務局出席職員職氏名

事務局長 佐伯 道雄君	書記 志垣 憲一君
書記 東 隆浩君	書記 本田 裕貴君

午前10時00分開議

○議長（中野 勝寛君）

おはようございます。ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しておりますので、ご了承をお願いいたします。

なお、本日の議案等の朗読は省略したいと思いますので、ご了承をお願いいたします。

日程第 1. 認定第 1号

日程第 2. 認定第 2号

日程第 3. 認定第 3号

日程第 4. 認定第 4号

日程第 5. 認定第 5号

日程第 6. 認定第 6号

日程第 7. 認定第 7号

日程第 8. 認定第 8号

日程第 9. 認定第 9号

日程第10. 認定第10号

○議長（中野 勝寛君）

これより日程第1、認定第1号から日程第10、認定第10号までの、令和2年度各会計決算認定10件を一括議題とし、各常任委員長の報告を求めます。

まず、堀田克也総合政策委員長。

○総合政策委員長（堀田 克也君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております、認定第1号のうち、総合政策委員会に付託されました所管部分、認定第5号及び認定第10号について、審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

初めに、認定第1号令和2年度中間市一般会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

まず、歳入歳出差引額は、10億6,640万円の黒字決算となっております。

まず、歳入に関しまして、市税収入では、法人市民税の税率の引下げや新型コロナウイルス感染症の影響による企業収益の悪化により、減額となっておりますが、それ以上に、償却資産の課税額の増加により固定資産税が大きく増額したため、前年度より9,970万円増額の、41億5,200万円となっております。

なお、市税徴収率は、新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予などの対応を行った結果、前年度の97%から、0.1ポイント下がり、96.9%となっております。

地方交付税では、普通交付税と特別交付税とを合わせた収入済額は、51億8,790万円で、前年度と比較して6,440万円の減額となっており、地方交付税を補完していま

す臨時財政対策債の借入額は3億7,980万円で、前年度と比較して1,300万円の減額となっております。

また、ふるさと納税を含む寄附金の収入済額は、12億6,290万円で、前年度と比較して6億4,220万円の増額となっております。

次に、歳出に関しましては、人件費では、令和2年度からの会計年度任用職員制度の導入により、前年度と比較して1,770万円、約0.6%増加となっております。

公債費では、令和元年度に借換債を実行したことにより、前年度と比較して5億7,790万円減額の、10億5,790万円となっております。

令和2年度末における普通会計の基金は、前年度から13億5,390万円増額し、残高は、24億350万円となっております。

また、地方債残高は、前年度から5,170万円減少して、111億1,330万円となっており、平成17年度から16年連続の減少となっております。

主な財政指標でございますが、借換債の発行などにより、資金繰りの危険度を示す実質公債費比率は前年度から4ポイント改善して9.3%に、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す将来負担比率は、9.5ポイント改善して45%に、財政構造の弾力化を示す経常収支比率は9.1ポイント改善して86.2%となっております。

主な事業としては、総務費においては、ふるさと納税制度による寄附が好調であったため、ふるさと納税管理委託料は3億1,030万円増額の6億4,220万円となっており、また、国の緊急経済対策である家計支援のための対象者1人当たり10万円を支給する特別定額給付金は、41億2,100万円となっております。

教育費においては、GIGAスクール構想整備事業として、令和元年度からの繰越分と令和2年度予算とを併せて、全ての小中学校に校内通信ネットワークが整備されるとともに、小・中学生1人1台のタブレット端末等が配備されております。

討論において、「ここ数年、中間市は赤字再生団体になるのではないかと、基金も枯渇するのではないかという危機感の中、当初予算の見込みでは、基金の額は11億円であったが、それを大きく上回る24億円の基金の積増しができたということで、これからの中間市を継続していくためには大事な1年間だったので賛成する」との意見がありました。

次に、認定第5号令和2年度中間市公共用地先行取得特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

令和2年度も新たな用地の取得はなく、収入支出とも生じておりませんでした。

次に、認定第10号令和2年度中間市病院事業会計決算認定について申し上げます。

収益的収支におきまして、経常収益16億5,770万円に対し、経常費用は、17億9,040万円で、1億3,270万円の経常損失となっております。

また、総収益23億6,210万円に対し、総費用は、17億9,600万円となり、単年度収支においては、5億6,610万円の純利益となっております。

これにより、前年度繰越欠損金 5 億 7,840 万円から、当年度純利益を差し引き、1,230 万円が、当年度未処理欠損金となっております。

令和 2 年度に黒字を計上した要因としては、病院事業会計を令和 2 年度で閉鎖したことにより、一時借入金返済に充てるため、一般会計から病院事業会計に、7 億円を繰り入れたことによるものであります。

次に、資本的収支では、収入 5,410 万円に対し、支出 9,660 万円で、4,250 万円の不足額については、一般会計からの繰入金等をもって措置されております。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、それぞれ採決いたしました結果、認定第 1 号、認定第 5 号、認定第 10 号のいずれも全員賛成で、原案どおり認定すべきであると決した次第であります。

よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

次に、中尾淳子市民厚生委員長。

○市民厚生委員長（中尾 淳子君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております認定第 1 号のうち、市民厚生委員会に付託されました所管部分並びに認定第 2 号、認定第 3 号、認定第 6 号及び認定第 7 号の各会計歳入歳出決算について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

初めに、認定第 1 号令和 2 年度中間市一般会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

まず、歳入については、市税収入額 4 億 5,200 万円で、前年度と比較し、9,970 万円の増額となっております。

また、市税徴収率につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予が行われ、前年度の 97% から 96.9% に微減しております。

次に歳出の主なものとして、民生費において、児童手当支給対象児童 1 人当たりの国の交付額 1 万円に、市独自で 5,000 円を上乗せし、合計 1 万 5,000 円を支給する子育て世帯臨時特別給付金として総額 6,980 万円が、児童扶養手当を受給するひとり親世帯等に 5 万円を支給するなどの、ひとり親世帯臨時特別給付金として、1 億 700 万円が支給されています。

また、衛生費においては、新型コロナウイルス感染症対策事業として、サーモグラフィ等による検温や除菌消毒といった感染拡大防止に必要な体制の整備、高齢者等に対する PCR 検査費用の助成及び感染流行下における季節性インフルエンザとの同時流行を予防するため高齢者、子ども及び妊婦に対するインフルエンザ予防接種費用が助成されています。

討論において、「国のマイナンバーカードの普及に対する姿勢は、国民の利便性の向上というより、国の国民に対する監視と収奪の強化を強く感じる。また、個人のプライバシーの侵害も危惧されている。そうしたことから、これを推し進める本決算については反

対する」との意見がありました。

次に、特別会計について申し上げます。

初めに、認定第2号令和2年度中間市特別会計国民健康保険事業歳入歳出決算認定について申し上げます。

歳入総額は48億5,280万円、また、歳出総額は56億2,550万円で、差引額は7億7,270万円の赤字となっておりますが、前年度繰上充用金9億1,070万円を除く単年度決算については、1億3,800万円の黒字決算となっております。

なお、黒字決算の要因は療育費に充当する普通交付金の概算交付額が過大交付であることによるものです。

討論において、「コロナ禍の下で、令和2年度の国民健康保険税を値上げした。そのような中、収納率は大きく伸びているため、生活実態に合わせた減免制度の拡充や子育て世帯に配慮した対応が求められている。以上のことから、決算案について反対する」との意見がありました。

次に、認定第3号令和2年度中間市住宅新築資金等特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

歳入総額は、貸付金元利収入等140万円、歳出総額は、繰上充用金等3億3,490万円で、差引額は3億3,350万円の収入不足となっております。

次に、認定第6号令和2年度中間市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

保険事業勘定の歳入総額は、52億4,770万円、歳出総額は49億6,590万円で、差引額2億8,180万円の黒字となっております。

歳入の主なものは、国庫支出金12億6,400万円、支払基金交付金12億7,850万円、また、介護保険料9億6,240万円で、前年度と比べ、3,050万円の減収となっております。

歳出の主なものは、要介護者に対して行われたサービスに係る保険給付費44億710万円で、前年度と比べ、要介護度の重い認定者の比率増加のため、1.3%程度上昇しております。

また、介護サービス事業勘定の歳入総額は4,840万円、歳出総額は3,180万円で、差引額は1,660万円の黒字となっております。

討論において、「令和3年度は従前の標準保険料5,937円が6,160円に値上げされており、平成12年度の介護保険制度発足時の3,050円からすると2倍以上である。この間、市民・国民の収入は一貫して減り続けている。もう少し市民に寄り添った財政運営を求めて、この決算に反対する」との意見がありました。

次に、認定第7号令和2年度中間市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

歳入総額は、8億3,640万円、歳出総額は、8億2,150万円で、差引額は1,490万円の黒字となっております。

歳入の主なものは、後期高齢者医療保険料6億20万円で、前年度と比べ、440万円の増収となっております。

歳出の主なものは、事務費及び徴収した保険料として、福岡県後期高齢者医療広域連合への納付金8億240万円となっております。

討論において、「高齢者を年齢によって区分けし、その医療費負担を全て国民に求めるといった制度設計がそもそも間違っている。制度の廃止を求め、この決算には反対する」との意見がありました。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、それぞれ採決いたしました結果、認定第1号、認定第2号、認定第6号及び認定第7号については賛成多数、認定第3号については全員賛成で原案どおり認定すべきと決した次第であります。

よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

次に、田口善大産業消防委員長。

○産業消防委員長（田口 善大君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております認定第1号のうち、産業消防委員会に付託されました所管部分並びに認定第4号、認定第8号及び認定第9号について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

まず、認定第1号令和2年度中間市一般会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

歳入の主なものは、市営住宅536戸の使用料として、土木使用料が7,820万円、土木費国庫補助金として、中鶴地区建替事業に伴う補助金等が9億890万円、道路・橋梁・住宅等の社会資本整備交付金が5,580万円、消防費石油交付金積立金が370万円となっております。

次に、歳出の主なものは、衛生費では、新型コロナウイルス感染症対策事業に伴う家庭用指定ごみ袋無料引換券配布事業等に2,620万円が支出されております。

労働費では、雇用創出事業費において、緊急短期雇用創出事業における事務員及び作業員等の業務委託料に1,390万円が支出されております。

農林水産業費では、農地費において、中底井野地区の農業用水路改良工事の工事請負費に1,170万円が支出されております。

商工費では、商工業振興費において、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業者支援の休業等支援協力金外6件の補助金等に1億4,730万円が支出されております。

土木費では、道路新設改良費において、仁八田水路2号橋橋梁補修工事外7件など合計

8件の工事請負費に9,360万円、住宅建設改良費において、中鶴更新住宅2期新築工事及び県営中鶴団地歩道整備工事等の工事請負費に9億6,480万円が支出されております。

消防費では、消防施設費において、消防資機材搬送車の購入費として1,420万円が支出されております。また、新型コロナウイルス感染症対策のため、消防仮眠室カプセルベッド一式の購入費として1,480万円が支出されております。

討論において、「消防本部所管の石油貯蔵施設立地対策等交付金及び基金繰入金について、白島備蓄基地が福智山断層の延長線上にあることから、設備の廃止を求めているため、消防資機材搬送車の購入費として立地対策等交付金及び基金繰入金を使わずに、消防施設整備積立基金積立金を使うべきだと考え、消防本部所管については反対する」との意見がありました。

次に、認定第4号令和2年度中間市地域下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

令和2年度決算においては、130万円の黒字となっております。

歳入の主なものは、下水道使用料が5,690万円で、徴収率は97.7%となっております。

歳出の主なものは、中鶴・曙下水処理場等の光熱水費・修繕料等に1,390万円、同下水処理場の維持管理委託等に5,810万円が支出されております。

次に、認定第8号令和2年度中間市公共下水道事業会計利益の処分及び決算認定について申し上げます。

まず、利益の処分につきまして、当年度未処分利益剰余金342万5,745円を全額繰り越すものでございます。

次に決算におきまして、収益的収支では、342万5,745円の純利益となっております。

また、資本的収支では2億996万4,000円の不足が生じましたが、当年度分損益勘定留保資金等で全額補填されております。

令和2年度の排水処理状況及び水洗化状況については、処理区域内戸数は1万5,731戸となり、前年度より4戸減少し、下水道普及率は77.3%となっております。

水洗化状況につきましては、令和2年度の水洗化戸数が1万3,746戸となり、前年度より171戸増加し、水洗化率は87.4%となっております。

工事の状況につきましては、七重町地区など6件の下水道建設工事、中鶴地区など9件の下水道改良工事が行われています。

次に、認定第9号令和2年度中間市水道事業会計利益の処分及び決算認定について申し上げます。

まず、利益の処分につきまして、当年度未処分利益剰余金4億1,210万円のうち、

減債積立金へ1億円を積み立て、残余3億1,210万円を繰り越すものであります。

次に決算におきまして、収益的収支では、6,940万円の純利益となっております。

また、資本的収支では4億9,740万円の不足が生じましたが、当年度分損益勘定留保資金等で全額補填されております。

給水状況につきましては、給水戸数は2万9,008戸で、前年度より54戸の増加となっております。

工事の状況につきましては、主なものとして浄水汚泥運搬、機器修繕工事等が11件、西部浄水場送水流量計更新工事等が10件、配水管布設替工事等の改良工事が26件行われています。

討論において、「浄水場運転監視業務委託が続いておりますが、水道事業については市民の命に関わる公共性の高い業務であるため、設備改修・更新、水道事業あり方検討委員会も含めて、職員の技術継承を進め、業務委託をやめることを要望するため反対する」との意見がありました。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、それぞれ採決いたしました結果、認定第1号及び認定第9号については賛成多数、認定第4号及び認定第8号については全員賛成であり、認定第1号及び認定第4号については原案どおり認定すべき、認定第8号及び認定第9号については原案どおり可決及び認定すべきと決した次第であります。

よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。

ただいまの委員長の報告に対し質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はありませんか。柴田芳信君。

○議員（5番 柴田 芳信君）

日本共産党の柴田芳信です。

認定第1号令和2年度中間市一般会計歳入歳出決算認定について、反対討論を行います。まず、市民厚生委員会に付託された部分であります。

令和元年から令和2年度にかけて、財政難を理由として各種補助金が大幅に削減されております。遠賀保護区保護司会に対する補助金は3分の1に減らされていますが、中間市のこの減額が遠賀郡内の他の自治体での減額にまで影響を与えているようです。暴力団に対する厳しい判決が出ておりますが、こういう時期だからこそ、保護司会の活動を支援すべきだと思います。

こうした生活支援団体への補助金の削減は、各所に見られます。市民生活の下支えをしているような市民団体への補助金削減には反対いたします。

次に、国のマイナンバーカードの普及に対する姿勢についてであります。

他の施策には見られないような積極性を感じます。しかし、このようなことは国民の利便性の向上というより、国の国民に対する監視と収奪の強化のためです。また、個人のプライバシーの侵害も、今までの経過の中からも危惧されているところでもあります。そうしたことから、これを推し進める本決算については反対いたします。

続いて、総合政策委員会付託の分であります。

人事評価制度の中止についてです。

職員同士を競わせて給料にまで差をつける人事評価制度はもうやめるべきです。公務労働に当たる職員にとって、大事なことは全体の奉仕者としての任務であり、職員同士の競争をさせることではなく、職員自身のスキルアップを図り親身にその知識を役立てることが大事ではないでしょうか。人事評価制度はやめるべきであります。

学校給食の直営化についてであります。

職員の定年退職を待ってその不補充により非正規への置き換えや民営化という手法は各所で取り入れられております。学校給食調理員の方もその手法で、現在直営2校、民間委託4校という状況であります。今後は、職員の退職を待って民営化に持っていこうという考え方だと聞きました。これ以上の民営化はやめて、職員の専門知識維持向上を目指すべきです。長期的には、中間市での専門知識の蓄積運用から、そのほうが市民にとってはプラスだと思います。

続いて、若年市職員の早期退職問題です。

市長は研修の強化を言いますが、それぞれでやるべきですが、職員に問題があると考えのではなく、職場環境の問題を中心に考えるべきではないでしょうか。公務員が一番やりがいを感じるのは、市民に喜んでもらえ、役に立っているという実感をしたときですが、今はその逆で、市民に恨まれるような業務遂行になっているのではないのでしょうか。若者が愛想をつかすような職場や自治体に未来はありません。

学校予算の復活についてであります。

学校図書室の司書が全員解雇となり、学校図書購入費の決算も、小中学校合わせて令和元年度の1,033万円から僅か9万円になっています。その他、学校関連予算の各所に予算カットの大きな振られています。財政面での中間市の未来を心配するのであれば、今の子どもたちの質の面での未来についても、もっと心配してほしいものだと思います。

続いて、消防本部所管の問題であります。

県の補助金377万2,000円が石油貯蔵施設立地対策等交付金757万2,127円計上され、そして、新消防資機材搬送車1,428万1,300円で購入をされております。白島備蓄基地が福智山断層の延線上にあり、危険極まりない施設であります。市民の命を

守る上からも、県や国に対しての施設の廃止を訴えるべきであります。

新消防資機材搬送車は、災害時には当然必要だと考えます。中間市消防施設整備積立金7,700万円を使うべきだと考え、消防本部所管については反対といたします。

次に、認定第9号令和2年度中間市水道事業会計利益の処分及び決算認定についてであります。

水道事業は市民の命に関わる大変公共性の高い業務であります。浄水場夜間休日の運転等、監視業務の委託がまだまだ続いています。設備改修・更新、水道事業あり方検討委員会も含めて、職員の技術力の継承も重要な時期に来ているのではないかと思います。よって、この事案については反対といたします。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありませんか。田口澄雄君。

○議員（6番 田口 澄雄君）

日本共産党の田口澄雄です。

まず、認定第2号令和2年度中間市特別会計国民健康保険事業歳入歳出決算認定について、反対意見を申し述べます。

コロナ禍の下で、市民生活は混迷の中にあります。令和2年度の国民健康保険税は値上げをしました。特に若年層に負荷のかかる値上げでした。

そのような中、収納率は令和元年度の94.68%が96.09%と大きな伸びを示しています。生活実態に合わせた減免制度の拡充や、子育て世帯に配慮した新たな対応が求められます。

以上のことから、この決算認定については反対をいたします。

次に、認定第6号令和2年度中間市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について、反対討論をいたします。

令和2年度予算は、介護保険の会期7期からすると最後の年でした。もともとの予算の考え方として、値上げ後の1年目は黒字、2年目はとんとん、そして最後の3年目は赤字で、全体としてはとんとんという考え方でしたが、この間、一貫して黒字です。しかも、令和3年度は従前の標準保険料5,937円が6,160円と値上げをされています。制度発足時の平成12年度の3,050円からすると2倍以上になります。この間、市民、国民の収入、一貫して減り続けています。もう少し市民に寄り添った介護保険の財政運営を求めます。

次に、認定第7号令和2年度中間市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について、反対意見を申し述べます。

高齢者を年齢によって分けをし、その医療負担を国民に求めるというこの制度設計はそもそも間違っています。しかも、来年からは負担の倍化まで実行されます。こうした制度については、その廃止を求めます。

かつて我が国でも1970年代に行われていた老人医療の無料化に戻すべきです。目先の医療費の削減は、長期的に見れば重症化による医療費の増加につながり、かえって財政難を生み出すことが日本各地の先進例で実証されています。この制度の廃止を求め、この決算認定については反対をいたします。

次に、認定第10号令和2年度中間市病院事業会計決算認定について、反対意見を申し上げます。

中間市立病院は、令和3年3月31日をもって閉院となりました。このコロナ禍の大変な時期に、市内唯一の公的医療機関をこうも簡単に潰してしまったことに、激しい怒りを覚えます。

また、その精算のために7億円の一般財源をつぎ込みましたし、今後は建物の廃棄処分のためにもかなりの予算が必要となります。

一方、市民の財産である病院建屋や内部の医療機器は、それこそ二束三文で処分されようとしています。医療行為に必要だったこれらの資材は、言わば市民の共有財産です。今、公的病院として果たすべき役割を放棄した上に、市民の財産を投げ捨てた今回のこの決算認定については、到底容認できるものではありません。反対をいたします。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

これにて討論を終結いたします。

これより認定第1号から認定第10号までの令和2年度各会計決算認定10件を順次採決いたします。

議題のうち、まず認定第1号令和2年度中間市一般会計歳入歳出決算認定についてを、起立により採決いたします。

本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、認定第1号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、認定第2号令和2年度中間市特別会計国民健康保険事業歳入歳出決算認定についてを、起立により採決いたします。

本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、認定第2号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、認定第3号令和2年度中間市住宅新築資金等特別会計歳入歳出決算認定についてを採決いたします。

お諮りいたします。本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(中野 勝寛君)

ご異議なしと認めます。よって、認定第3号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、認定第4号令和2年度中間市地域下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決いたします。

お諮りいたします。本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(中野 勝寛君)

ご異議なしと認めます。よって、認定第4号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、認定第5号令和2年度中間市公共用地先行取得特別会計歳入歳出決算認定についてを、採決いたします。

お諮りいたします。本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(中野 勝寛君)

ご異議なしと認めます。よって、認定第5号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、認定第6号令和2年度中間市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定についてを、起立により採決いたします。

本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長(中野 勝寛君)

起立多数であります。よって、認定第6号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、認定第7号令和2年度中間市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを、起立により採決いたします。

本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長(中野 勝寛君)

起立多数であります。よって、認定第7号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、認定第8号令和2年度中間市公共下水道事業会計利益の処分及び決算認定についてを採決いたします。

お諮りいたします。本決算に対する委員長の報告は原案可決及び認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり原案可決及び認定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認めます。よって、認定第8号は委員長の報告のとおり原案可決及び認定されました。

次に、認定第9号令和2年度中間市水道事業会計利益の処分及び決算認定についてを、起立により採決いたします。

本決算に対する委員長の報告は原案可決及び認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり原案可決及び認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、認定第9号は委員長の報告のとおり原案可決及び認定されました。

次に、認定第10号令和2年度中間市病院事業会計決算認定についてを、起立により採決いたします。

本決算に対する委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。本決算は委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、認定第10号は委員長の報告のとおり認定されました。

日程第11. 第37号議案

日程第12. 第38号議案

日程第13. 第52号議案

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第11、第37号議案、日程第12、第38号議案及び日程第13、第52号議案の補正予算3件を一括議題とし、各常任委員長の報告を求めます。

まず、堀田克也総合政策委員長。

○総合政策委員長（堀田 克也君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております第37号議案及び第52号議案の

うち、総合政策委員会に付託されました所管部分について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

初めに、第37号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第5号）について申し上げます。

今回の補正予算は、令和3年度の当初予算が、本年6月の市長選挙後に改めて事業の調整を行うことを前提とした骨格予算として編成されたものであったことから、事業調整を行った上での本格予算とするもので、歳入歳出それぞれ6億3,346万円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ202億9,414万円とするものです。

歳入の主なものは、地方特例交付金において、交付額の確定に伴い460万円が減額、地方交付税においては、普通交付税額の決定に伴い2億9,420万円が増額計上されております。

市債においては、臨時財政対策債を1億670万円減額するとともに、道路改良長寿命化事業に1,240万円、農業環境整備事業に1,200万円が追加計上されております。

また、歳出の主なものは、総務費において、公共施設の整備等を実施するための財源となる新たに設置する予定の中間市公共施設整備等基金への積立金として7億円などが計上され、また、事業の財源調整に伴い、財政調整基金積立金が2億1,400万円減額されております。

消防費においては、緊急地震速報等を受信し、一斉送信するためのJアラート自動起動装置の更新業務に240万円が計上されております。

教育費においては、現在、小学校4校及び中学校4校で実施されております給食調理等業務委託について、令和4年度以降の3年間に係る業務委託契約の締結のため、限度額を3億430万円とする債務負担行為が設定されております。

次に、第52号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第6号）について、申し上げます。

今回の補正予算は、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置により、経済活動への影響が全国的に生じていることを踏まえ、その影響を受ける事業者に対し、地域の実情に応じて、きめ細かな支援の取組を実施するため、国から新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（事業者支援分）の交付上限額が示されたことを受けたものであり、歳入歳出それぞれ3,979万円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ203億3,392万円とするものです。

まず、歳入については、国庫支出金において、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（事業者支援分）3,690万円が、また、繰入金において、財源調整のため、財政調整基金繰入金280万円が計上されております。

また、歳出については、教育費において、オンライン学習のため児童生徒がタブレット端末を各家庭で使用する場合に必要となるフィルタリングソフトの使用料280万円が計

上されております。

なお、本事業に要する費用は、財源調整のための財政調整基金繰入金において対応されますが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（通常分）の対象となることから、今後の補正予算でこの交付金を財源充当し、本市の負担が生じないように、調整する予定とのことであります。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、それぞれ採決いたしました結果、第37号議案、第52号議案のいずれも全員賛成で、原案どおり可決すべきであると決した次第であります。

よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

次に、中尾淳子市民厚生委員長。

○市民厚生委員長（中尾 淳子君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております第37号議案のうち、市民厚生委員会に付託されました所管部分及び第38号議案について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

初めに、第37号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第5号）について申し上げます。

歳入については、国庫支出金におきましては、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費国庫補助金1,300万円、マイナポイント事業費補助金450万円が計上されております。

次に、歳出については、民生費におきまして、「幸せを考える人権のつどい」開催のため、人権フェスティバル委託料に10万円が計上されています。

衛生費におきましては、新型コロナウイルスワクチン接種事業を10月以降も継続して実施するために必要な経費として1,300万円が計上されています。

討論において、「遠賀保護司会中間分区への補助金が令和元年度の3分の1に、民生児童委員協議会活動費補助金が157万5,000円から81万円に半減されている。こうした社会的弱者に配慮した活動を行っている団体に対して、この措置はひど過ぎると思う。元への復活を求めて、この補正予算に反対する」との意見がありました。

次に、第38号議案令和3年度中間市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）について申し上げます。

保険事業勘定の歳入については、歳出補正に伴う財源調整として、前年度繰越金2,240万円が計上されています。

次に、歳出については、令和2年度事業における介護給付費の確定に伴う国及び県の返還金が1,970万円、支払基金負担金返還金が720万円、地域支援事業費の確定に伴う償還金として、支払基金返還金が20万円計上されております。

以上により、歳入歳出それぞれ2,734万6,000円が追加され、介護保険サービス事業勘定を加えた予算総額は歳入歳出それぞれ52億1,498万7,000円となっております。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、それぞれ採決いたしました結果、第37号議案については賛成多数で、第38号議案については全員賛成で、原案どおり可決すべきであると決した次第であります。

よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

次に、田口善大産業消防委員長。

○産業消防委員長（田口 善大君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております第37号議案及び第52号議案のうち、産業消防委員会に付託されました所管部分について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

初めに、第37号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第5号）について申し上げます。

歳入につきましては、市債において、道路改良長寿命化事業に伴う道路整備事業債として1,240万円、県補助金において、農村整備総合事業費補助金として770万円が計上されております。

歳出につきましては、農林水産業費では、老朽化した中底井野地区の農業用水路工事に1,920万円が計上されております。

土木費では、老朽化した道路を改良し長寿命化するための工事に1,340万円が計上されております。

次に、第52号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第6号）について申し上げます。

まず、歳入につきましては、国庫支出金におきまして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（事業者支援分）として3,690万円が計上されております。

次に、歳出の主なものにつきましては、商工費において、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置に伴う影響により、売上が減少している市内に事業所を有する事業者において、感染防止対策の徹底により福岡県が発行する感染防止宣言ステッカーまたは感染防止認証マークを掲示する対象施設に対し、1施設当たり一律15万円を支給する中間市感染防止対策協力一時金に3,670万円が計上されております。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、それぞれ採決いたしました結果、第37号議案、第52号議案いずれも全員賛成で、原案どおり可決すべきと決した次第であります。よろしくご審議のほどお願い申し

上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。ただいまの委員長の報告に対し、質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はありますか。田口澄雄君。

○議員（6番 田口 澄雄君）

第37号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第5号）について、反対討論を行います。

新設予定の公共施設整備等基金積立金に7億円の積立てを予定しています。他の積立基金を廃止して集める予定のようですが、こうした公共施設の再編に特化した基金の積立てには反対です。総合的な市政運営の観点からも、もっと福祉や生活関連の予算対応も考えるべきだと思います。

次に、個人番号カードの交付事務に要する経費が計上されていますが、この制度そのものに反対です。

次に、遠賀保護司会中間分区への補助金が令和元年度の3分の1、民生児童委員協議会活動費補助金も、令和元年度157万5,000円が81万円と約2分の1となっています。こうした社会的弱者に配慮した活動を行っている団体に対して、この減額はあり得ないと思います。元への復活を求めます。

以上により、この条例案については反対をいたします。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

これにて討論を終結いたします。

これより、第37号議案、第38号議案及び第52号議案の、補正予算3件を順次採決いたします。

議題のうち、まず第37号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第5号）を起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、第37号議案は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、第38号議案令和3年度中間市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）を採決いたします。

お諮りいたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認めます。よって、第38号議案は、委員長の報告のとおり可決されました。

次に、第52号議案令和3年度中間市一般会計補正予算（第6号）を採決いたします。

お諮りいたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認めます。よって、第52号議案は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第14. 第39号議案

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第14、第39号議案中間市手数料条例の一部を改正する条例を議題とし、産業消防委員長の報告を求めます。田口善大産業消防委員長。

○産業消防委員長（田口 善大君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております第39号議案中間市手数料条例の一部を改正する条例について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

今回の条例改正は、本市のホームページにおける中間市行政情報マップの公開により、その中で都市計画法の規定による用途地域等の情報を無償で閲覧、提供できるようになることから、これまで無償で交付しておりました都市計画に関する証明書を有償化するものであります。

条例改正の内容といたしましては、手数料を徴収する事務として都市計画証明書の交付に関する事務を追加し、手数料の額等を定めるものでございます。

なお、条例の施行日につきましては、有償化の周知期間を踏まえ、令和3年12月1日とされております。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、採決いたしました結果、第39号議案は、全員賛成で原案どおり可決すべきと決した次第であります。よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終

わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。ただいまの委員長の報告に対し、質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

討論なしと認めます。

これより、第39号議案中間市手数料条例の一部を改正する条例を採決いたします。

お諮りいたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認めます。よって、第39号議案は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第15. 第40号議案

日程第16. 第41号議案

日程第17. 第42号議案

日程第18. 第43号議案

日程第19. 第44号議案

日程第20. 第45号議案

日程第21. 第46号議案

日程第22. 第47号議案

日程第23. 第48号議案

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第15、第40号議案から日程第23、第48号議案までの条例廃止9件を一括議題とし、総合政策委員長の報告を求めます。堀田克也総合政策委員長。

○総合政策委員長（堀田 克也君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております第40号議案から第48号議案までの条例廃止9件について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

初めに、第40号議案中間市地域振興整備基金条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市地域振興整備基金は、平成元年12月に、地域振興を図るための事業に必要な財源を確保するために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は2万円で、僅少となっており、基金としての運用管理をする意義が失われたことから廃止されるものであります。

次に、第41号議案子孫にのこすふるさとづくり基金条例を廃止する条例について申し上げます。

子孫にのこすふるさとづくり基金は、平成元年3月に、中間市の発展と、住みたくなるまちづくり事業の財源に充当するために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は10万円で、僅少となっており、基金としての運用管理をする意義が失われたことから廃止されるものであります。

次に、第42号議案中間市福祉対策積立基金条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市福祉対策積立基金は、平成元年4月に、福祉事業の財源に充当するために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は2,000万円ではありますが、介護保険事業特別会計や、特別会計国民健康保険事業には、本基金を活用せず、一般会計から繰入れを行っていることから、基金として運用管理する意義が失われたため廃止されるものであります。

次に、第43号議案中間市ふるさと水と土保全基金条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市ふるさと水と土保全基金は、平成6年4月に、土地改良施設の機能を適正に発揮させるための集落共同活用の強化に対する支援事業の財源とするために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は2万円で、僅少となっており、基金としての運用管理をする意義が失われたことから廃止されるものであります。

次に、第44号議案中間市住宅基金条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市住宅基金は、昭和52年6月に、市営住宅及び共同施設の建設、修繕及び改良などに要する経費並びに住居生活環境整備のための費用に充当するために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は2万円で、僅少となっており、基金としての運用管理をする意義が失われたこと、また、公共施設整備等の新たな基金の設置により、一体的な資金の運用管理が可能となることから廃止されるものであります。

次に、第45号議案中間市都市計画事業等積立基金条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市都市計画事業等積立基金は、昭和54年7月に、都市計画法に基づく都市計画事業及び土地区画整理法に基づく土地区画整理事業に要する経費に充当するために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は2,000万円ではありますが、公共施設整備等の新たな基金の設置により、一体的な資金の運用管理が可能となることから廃止されるものであります。

次に、第46号議案中間市消防施設整備積立基金条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市消防施設整備積立基金は、昭和48年3月に、消防の近代化と、消防の充実強化を図り、その整備に要する費用に充当するために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は7,726万3,000円ではありますが、公共施設整備等の新たな基金の設置により、一体的な資金の運用管理が可能となることから廃止されるものであります。

次に、第47号議案中間市まなびの森基金条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市まなびの森基金は、平成15年3月に、生涯学習の振興に寄与することを目的とした施設の充実整備に要する費用に充当するために創設された基金であります。

令和2年度末の基金残高は2万円で、僅少となっており、基金としての運用管理をする意義が失われたこと、また、公共施設整備等の新たな基金の設置により、一体的な資金の運用管理が可能となることから廃止されるものであります。

次に、第48号議案中間市基金の運用の特例に関する条例を廃止する条例について申し上げます。

中間市基金の運用の特例に関する条例は、より柔軟な資金運用を可能とするために、本条例の対象となる基金から一般会計に繰り入れて運用することを可能にする特例を定めるもので、令和元年12月に制定されたものであります。

この条例の対象となる10の基金のうち、8の基金を廃止する議案が上程されており、これらの基金が廃止となった場合、本条例の制定趣旨が失われることから廃止するものであります。

なお、いずれの条例も施行日は令和4年4月1日でございます。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、それぞれ採決いたしました結果、第40号議案から第48号議案までのいずれも賛成多数で、原案どおり可決すべきであると決した次第であります。よろしくご審議のほどお願い申し上げます、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。ただいまの委員長の報告に対し、質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はありますか。田口澄雄君。

○議員（6番 田口 澄雄君）

第40号議案から第48号議案の全てにわたって一括して反対討論を行います。

今回の各種基金条例の廃止は、それに、かなりの部分をそれに代わるものとして、第49号議案の公共施設整備等基金で一括して取りまとめようというのですが、各基金にはそれぞれの分野での役割があって創設されたものです。

公共施設の今後の管理のみを目的として、1本の大きな基金に求めるという考え方には反対です。

また、今までこうした基金を活用してこなかったことも問題であります。

行政執行は特定の業務に特化することなく、全体として市民生活の維持向上を図るべきです。

よって、第40号議案から第48号議案までの9条例廃止案については反対をいたします。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありませんか。田口善大君。

○議員（3番 田口 善大君）

中間クラブの田口善大です。第40号議案から第48号議案の各基金廃止条例について、一括して反対意見を申し述べます。

地方自治法241条第3項は、第1項の規定により、特定の目的のために財産を取得し、又は資金を積み立てるための基金を設けた場合においては、当該目的のためでなければ、これを処分することができないと定めております。

さきの議会で基金の運用の特例に関する条例の設置を認め、基金の移動、許諾、承認したことについて、本議会においても地方自治法241条第3項の定めにも照らして、条例制定が法令を遵守したものかどうか、改めて検証されなければならないものと考えます。

先ほど申し上げた地方自治法241条第3項が定める基金の目的を厳格に正しく認識、理解されていれば、このような条例の提案は、特段の事情がない限りあり得ないものであります。

特段の事情とは、財政が極めて厳しい非常時の状況であり、財政再生団体等の適用を受けることが相当程度予測される場合等であります。

今回上程された基金廃止等の条例は、特段の事情に該当するとは認め難く、極めてイレギュラーな基金の廃止等による目的外の基金の移動であることは明白であります。

さらには、公的施設準備資金条例の設置は、本来、財政の健全化を強力に進めることで、将来資金の確保を図らなければならないものであり、本末転倒の対応と言わざるを得ません。

ただいま申し上げたことを端的に表現すれば、貯金箱や貯金の中身をつくり替えても貯金のできる状況、すなわち基礎的財政収支、プライマリーバランスの健全化を図らなければ、箱物行政と同じように受皿だけ用意しても、その箱物に対する財政の適正な運用が伴

われなければ、財政収支の見通しも立たず、適正な財政の確立に寄与しないことと同じであります。

普通に貯金ができる財政改革、行政改革を実行することで、財政の余裕をつくり、それによって発生した余剰を、災害等、いついかなる不測の事態が生じても対応できる強い財政にしなければなりません。

そもそも基金とは、法令の定めによって目的を持ってつくられたものであり、本来財政が適正に執行されていれば、その目的をつなげていくために積み立てられ運用されなければならないものであり、不要論が優先して、目的を除去するものではないものであります。

積立てが実行される適正な財政運用が果たしてこられなかった事実を踏まえることなく、目先のつけ替えで廃止や設置をすることがあってはなりません。

本市が財政再生団体になり得る状況であれば、改革の一手段、非常時対応の手段としてあり得ると考えられますが、本市の現状がそうかと断定できる状態とはとても思えません。

将来、発生が予測される財政資金の確保としてであれば、今の財政計画を果敢に見直し、実行可能な財政計画をつくるのが最優先されるべきであり、本案件のような場当たりの計画では、その結果すら計画的な余剰金の積立てなど担保されないことは明白であります。

財政改革の正しい筋道は、計画策定から実行に至るまで、議会との整合性のある協議を通じて行われるべきであり、本件のような一方的な片道通行では前進しません。

市長に求めます。ただいま申し上げたことに積極果敢、スピーディーに取り組んでいただきたい。

今現在、この姿勢を見ることはできません。このような事的で、地方自治法の定めを著しくゆがめたイレギュラーな対応には反対せざるを得ません。

以上をもって、反対討論といたします。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

これにて、討論を終結いたします。

これより、第40号議案から第48号議案までの条例廃止9件を順次採決いたします。

議題のうち、第40号議案中間市地域振興整備基金条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第40号議案は否決されました。

次に、第41号議案子孫にのこすふるさとづくり基金条例を廃止する条例を起立により

採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第41号議案は否決されました。

次に、第42号議案中間市福祉対策積立基金条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第42号議案は否決されました。

次に、第43号議案中間市ふるさと水と土保全基金条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第43号議案は否決されました。

次に、第44号議案中間市住宅基金条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第44号議案は否決されました。

次に、第45号議案中間市都市計画事業等積立基金条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第45号議案は否決されました。

次に、第46号議案中間市消防施設整備積立基金条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第46号議案は否決されました。

次に、第47号議案中間市まなびの森基金条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第47号議案は否決されました。

次に、第48号議案中間市基金の運用の特例に関する条例を廃止する条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第48号議案は否決されました。

日程第24．第49号議案

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第24、第49号議案中間市公共施設整備等基金条例を議題とし、総合政策委員長の報告を求めます。堀田克也総合政策委員長。

○総合政策委員長（堀田 克也君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております、第49号議案中間市公共施設整備等基金条例について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

今回の条例制定は、公用又は公共の用に供する施設である公共施設の整備等に要する経費の財源に充てることを目的として資金を積み立て、運用するための基金を設置するものであります。

条例制定の背景としては、本市の公共施設の多くが高度経済成長期に建設されており、建物の老朽化により、大規模改修、修繕、建替え、除却などが必要となっており、現時点での今後10年間の行政需要総額の概算は101億円以上、また、年間3億円以上の経費が必要であると見込まれ、起債の活用等を行っても市の財政負担が膨大となること。

さらに、将来的には人口減少と少子高齢化が進行することによる税収等の収入が減少するとともに、社会保障等に要する経費の増加が予想され、さらには、社会情勢の変化に伴い、高度化・多様化する公共施設に対するニーズに適切に対応していくことなどが挙げられており、年度間における財政負担の平準化を図る目的となっております。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、採決いたしました結果、賛成多数で原案どおり可決すべきと決した次第であります。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。ただいまの委員長の報告に対し、質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はありませんか。柴田芳信君。

○議員（5番 柴田 芳信君）

日本共産党の柴田芳信です。第49号議案中間市公共施設整備等基金条例に対する反対討論を行います。

平成29年3月に中間市の公共施設等管理計画が打ち出され、平成30年12月には中間市社会教育施設等あり方検討委員会の報告書が出されております。

中央公民館は、本市の社会教育の中核的な役割を果たすことを目的とした必要な施設である。利用者の視点や管理者視点からも評価が高い。

したがって、今後も保有すべき施設として積極的に維持管理を行うとともに、維持保全を図るために耐震化の改修等を実施し、適正に維持更新を行うとするとして、目標年数としては築40年が経過となるが、耐震改修等を実施し、目標耐用年数を70年として使用していくべきと出されました。

今年の3月、中間市公共施設等個別施設計画が出されました。そして、本議会に上程されたのが第49号議案中間市公共施設整備等基金条例だと思います。8つの基金、9つの条例を廃止することによって基金の一本化を図ることだと思います。

令和3年3月作成の公共施設等個別施設計画では、2024年、本庁舎本館の大規模改修、さらには2025年、市庁舎別館、消防本部の大規模改修がございます。26年には保健センターと続いていきます。

先日、消防本部にて資機材搬送車を見学させていただいたときに、建屋も併せて見学をさせていただきました。各階の壁・床にクラックが走り、窓から雨漏りや、天井水漏れの跡が多く見受けられました。

消防本部については、市民の財産、そして、命を守るとりであります。私は、早急に改修すべきであると思いました。今こそ中間市消防施設整備積立基金を使うときだと思います。

本議案の基金の一本化については、市長のひと声、そしてまた、力のある部長の付度市政の始まりだと思います。

よって、この第49号議案中間市公共施設整備等基金条例については反対いたします。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありませんか。掛田るみ子さん。

○議員（9番 掛田るみ子君）

公明党市議団を代表し、第49号議案中間市公共施設整備等基金条例に対する賛成討論

を行います。

総合政策委員会の審査において、今後10年間で学校の建設をはじめとした公共施設の維持保全等に係る見込額が100億円以上になるその財源を確保するため、本基金を新たに設置し、7億円を積み立てる。

また、今ある目的基金条例のうち8本を廃止し、その基金の総額1億3,800万円も本基金に積み増し、今後の財政負担に備えたいとの説明を受けました。

また、それにより基金総額が36億円になるとの資料の提示がありました。

本条例は、これまで消防や教育・福祉など目的別に積み立てていたものを一括管理し将来に備えるものであり、人口減少と高齢化が進む本市の計画的で持続可能な行政運営のための新たな基金の創設であると理解しました。

また、資料では、対象の目的基金8つのうち4つは2万円しか残っておらず、残金の少ない基金を取りまとめ一括管理することは、事務の効率化にもつながるものと理解いたしました。

家計管理の目線からすると、残高が少ない通帳をまとめて整理するようなもので、当然であると考えます。見解の相違でしょうが、反対されることがいま一つ理解できません。

ご存じのように、中間市は平成27年の国勢調査で予想以上に人口が落ち込み、収支のバランスの崩れにより、当時34億円あった基金の取り崩しが続きました。

令和元年には10億円まで落ち込み、財源調整や災害対応等に使われる財政調整基金に至っては1億3,000万円と枯渇する寸前でありました。そのため、財政調整基金で足りないときには、目的基金から借入れができるような条例も制定せざるを得ませんでした。

それが2年もたたないうちに基金が36億円とV字回復し、平成27年の34億円を超え、平成25年並みの額まで持ち直す見込みであることに大変驚いています。

思えば銀行からの借り換えによる返済の先送りに始まり、公共施設等の1年前倒しでの廃止、経営破綻寸前の市立病院の廃院など、苦渋の決断で市民は大きな痛みを被りましたが、赤字再生団体への道をひとまず回避することができました。市長をはじめ執行部の皆様の行政努力の成果であると評価いたします。

さて、さきの討論では、基金の積み増しはやめ、福祉予算などに使うべきだとの主張がありました。中間市の人口が増加し税収が増えているようなときなら考えられるでしょうが、高齢者人口まで減っているような状況での財政支出は、将来負担として返ってくるのではないのでしょうか。次の世代の負担軽減のため基金に積み立てることは極めて良識的な判断と思います。

財政基盤の安定は、市民生活を守るための自治体行政の生命線であります。よって、中間市の公共施設を総合的に管理し、財源確保をしていくための中間市公共施設整備等基金条例の制定に、公明党市議団は賛成させていただきます。

以上で、討論を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありませんか。田口澄雄君。

○議員（6番 田口 澄雄君）

第49号議案中間市公共施設整備等基金条例について、賛成することが理解できない立場から反対意見を申し上げます。

市は、財政の厳しさを盛んに強調しますが、中間市の財政は一気に建てた公共施設の借金返済のために、無計画な返済を行ってきたことにあります。

この15年間で見ますと、13億円毎年借りて、21億円返してきたことになる勘定です。毎年8億円も返済超過では、貯金どころではないのは致し方のないことではないでしょうか。これを財政難の一言で片づけてもよいものでしょうか。

しかし、これも令和元年に市債の借り換えを行った結果、10億円借りて10億円返すというパターンに今変わっています。その結果何が起こったのでしょうか。

令和2年度の決算を見ますと、財政調整基金の積み増しが13億5,000万円で、一気にため込額が14億8,000万円にもなっています。市立病院を閉院したために、一度に7億円の負担が必要となりましたが、これを支払ってもそれだけのため込みをしているわけです。

また、税収も平成22年度からの10年間で見ますと1億2,000万円も額で多くなっており、この11年間では今税収、最高額となっています。

また、地方消費税交付金が、平成25年度に比べれば約3億円が8億円超えて5億円近くも増えており、地方交付税が減っているのは、こうした他の収入が増えた結果であり、3億8,000万円ほど地方交付税が減っていますが、こうしたことが起因しているものと思われま

す。全体的に収入は確実に増えており、人口も国の想定より減少に歯止めがかかっています。現在の人口の減っている最大の要因は、高齢化による死亡者数が出生を上回っているためであり、高齢化の進んだ中間市としては、ある意味で仕方のない結果ですが、これは全国的な傾向でもあります。

市内を見渡しますと、現在、若者世帯の新築での転入が目立ちます。今後はそのことに配慮した市政運営と財政計画が求められると思います。

特に学校は、一度に多く潰して新たに建て替えるというものでは、物すごい財政負担が必要になりますし、人口にも一定の変化が見られる状況下にありますので、もっと慎重な判断が要ると思います。

耐震化を行い、全てのエアコンを入れ替え、下水道まで完備して、その直後に今度は潰そうという話であります。人口の変化を追いながら、それに見合った対応を時々の市民の声を聞きながら運営していくことが、今一番懸命な選択肢だと思います。

一度に建てたものを一度に潰して、そのための経費と新築の経費が要るからと、それに

特化して基金をつくり、他の基金を潰すというのは、あまりにも乱暴な対応ではないでしょうか。

今までいろんな基金をつくってきたのには、必要があるからであり、それを活用してこなかったことにこそ問題があるのであって、使わなかったから潰すというのではないと思います。

もっと市民にとってきめ細かな市政運営を求めて、以上のことから、この条例案には反対をいたします。

○議長（中野 勝寛君）

ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

これにて討論を終結いたします。

これより、第49号議案中間市公共施設整備等基金条例を起立により採決いたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立少数であります。よって、第49号議案は否決されました。

日程第25. 第50号議案

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第25、第50号議案中鶴公営住宅（1期）新築工事（建築工事）請負契約についてを議題とし、産業消防委員長の報告を求めます。田口善大産業消防委員長。

○産業消防委員長（田口 善大君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております第50号議案中鶴公営住宅（1期）新築工事（建築工事）請負契約について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

今回の議案は、国庫補助事業である地域居住機能再生推進事業を活用した中鶴地区建替事業における3棟目の新築工事・建築工事の契約に係るものであります。

今回新築される中鶴公営住宅の建物は、建築面積744平方メートル、延床面積2,977平方メートルの鉄筋コンクリート造5階建ての建物で、2DK25戸、3DK25戸の合計50戸が整備されることとなっております。

本件工事に係る請負契約につきましては、令和3年7月5日の条件付一般競争入札の結果、サンコー・山藤特定建設工事共同企業体が7億9,820万6,310円で落札し、同日付けで仮契約が締結されております。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、採決いたしました結果、第50号議案は、全員賛成で原案どおり可決すべきと決した次第であります。よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。ただいまの委員長の報告に対し、質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

討論なしと認めます。

これより、第50号議案中鶴公営住宅（1期）新築工事（建築工事）請負契約についてを採決いたします。

お諮りいたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認めます。よって、第50号議案は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第26. 第51号議案

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第26、第51号議案損害賠償の額を定め、和解することについてを議題とし、総合政策委員長の報告を求めます。堀田克也総合政策委員長。

○総合政策委員長（堀田 克也君）

ご指名によりまして、ただいま議題となっております第51号議案について審査を行いましたので、その概要と結果をご報告申し上げます。

今回の損害賠償の額を定め、和解することについては、中間市立病院が、株式会社メディウムジャパンと、平成30年12月26日付けで締結していたテレビ付き床頭台システム設置契約について、中間市立病院の閉院により、令和8年3月31日までの契約期間であったところ、本年3月31日をもって中途解約したことにより、同社に対する解約損料に係る損害が生じたことによるものであります。

本件に係る損害賠償に当たっては、本市の顧問弁護士との協議を重ねた上で、解約損料

の額を2,034万8,040円とし、また、解約損料を本市が支払うことによって、本市に対する損害賠償請求権を放棄するなどの事項を同社と和解するものであります。

以上が、当委員会に付託されました議案の概要であります。

最後に、採決いたしました結果、全員賛成で原案どおり可決すべきであると決した次第であります。よろしくご審議のほどお願い申し上げまして、委員長の報告を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。ただいまの委員長の報告に対し、質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

討論なしと認めます。

これより、第51号議案損害賠償の額を定め、和解することについてを採決いたします。

お諮りいたします。本案に対する委員長の報告は、可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認めます。よって、第51号議案は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第27. 議員提出議案第5号

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第27、議員提出議案第5号中間市議会ハラスメント根絶条例を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。安田明美さん。

○議員（8番 安田 明美君）

福祉クラブの安田明美でございます。議員提出議案第5号中間市議会議員によるハラスメント根絶条例を提案することに当たりまして、次のとおり、その理由を申し上げます。

議員各位におかれましては、市民の代表として日々活動されておられることに改めて敬意を表します。

ご承知のように、ハラスメントとは嫌がらせ、いじめ等を表す言葉であり、非常に悪質な人権侵害でございます。基本的人権を損ない、個人の尊厳を著しく傷つけ、肉体的・精神的被害をもたらす行為でございまして、断じてあってはならない行為でございまして、

当然、市政におきまして、特に市職員に対するハラスメントは、業務への支障、停滞につながり、ひいては市民サービスの低下を招き、市民の混乱を引き起こすことは必然でございます。

また、市民のみならず、社会からの信用及び信頼を失うこととなります。

本議会におきまして、この条例を制定し、各議員間の相互信頼関係の構築を今以上に図るとともに、市職員の皆さんの職位、職責にかかわらず、全ての人たちが互いに人格を尊重し、相互に信頼される環境をつくり上げていかなければなりません。

皆さん、中間市政の発展に寄与することが本条例の主眼でございます。

以上、申し上げた理由をもちまして提案理由の説明といたし、議員各位の配慮ある審議をお願いいたします。何とぞ皆さん、ご配慮とご理解を賜りますようお願い申しまして、説明を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議員提出議案第5号は、委員会の付託を省略したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認め、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

討論なしと認めます。

これより、議員提出議案第5号中間市議会ハラスメント根絶条例を起立により採決いたします。本案について、原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、議員提出議案第5号は、原案のとおり可決されました。

日程第28. 意見書案第7号

日程第29. 意見書案第8号

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第28、意見書案第7号及び日程第29、意見書案第8号の意見書案2件を

一括議題とし、提案理由の説明を求めます。掛田るみ子さん。

○議員（９番 掛田るみ子君）

公明党の掛田るみ子です。意見書案の趣旨説明を行います。

初めに、出産育児一時金の増額を求める意見書案の趣旨説明を行います。

厚生労働省によると、２０１９年度の出産費用が正常分娩の場合、全国平均額は約４６万円で、室料差額等を含む費用の全国平均額は約５２万４、０００円となっています。出産に係る費用は年々増加し、費用が高い都市部では現在の４２万円の出産育児一時金の支給額では賄えない状況になっております。

２００９年より、分娩が原因で重度脳性麻痺になった子と家族を補償するための産科医療補償制度が創設されましたが、出産育児一時金にはその掛金が含まれております。この掛金額を引き下げることによって需要額を増やす努力もしておりますが、実態とは大きな隔たりがあります。

少子化対策は、我が国の重要課題の一つであり、安心して子どもを産み育てられる環境を整えるための大事な一手が、出産時の経済的支援であります。

よって、政府に対し、現在の負担に見合うような出産育児一時金の引上げを求めるものです。

引き続き、選択的夫婦別姓制度の法制化に向けた議論を求める意見書案の趣旨説明を行います。

平成３０年２月に内閣府が公表した世論調査において、夫婦同姓も夫婦別姓も選べる選択的夫婦別姓制度の導入に賛成または容認すると答えた国民は６６．９％であり、反対の２９．３％を大きく上回ったことが明らかになりました。

現行の民法では、婚姻時に夫婦のいずれか一方が姓を改めることと規定しているため、改姓を望まない人は、姓を維持するため、法的な保障の少ない事実婚を選択せざるを得ません。

少子高齢化による一人っ子同士の結婚や子連れ再婚、高齢での結婚などが増え、改姓を望まない人も多く、中には結婚を諦めてしまう人もいるため、非婚や少子化につながる原因にもなっています。

このような状況から、国連の女子差別撤廃委員会は、日本政府に対し、女性が婚姻前の姓を保持する選択を可能にするよう再三にわたり民法の改正を勧告しています。

政府は、結婚しても旧姓を通称として使用できるように、通称使用の拡大の取組を進めていますが、社会的なダブルネームを管理していくことで生じるコストの増大や、個人識別の誤りのリスクなどの問題も指摘されています。

また、通称使用では、自己同一性を喪失する苦痛を解消するものにはならず、根本的な解決策にはなりません。

平成２７年１２月の最高裁に引き続き、令和３年６月の最高裁決定においても、夫婦同

姓規定が合憲とされる一方、夫婦の氏に関する制度のあり方については、国会で論ぜられ判断されるべきであるとされたところですが、依然として国会での議論は進んでいない状況です。

よって、国に、選択的夫婦別姓制度の法制化に向けた積極的な議論を行うよう強く要望するものです。

以上、議員の皆様のご賛同をお願いしまして、趣旨説明を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

お諮りいたします。ただいま議題となっております意見書案2件については、委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認め、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

討論なしと認めます。

これより、意見書案2件を順次採決いたします。

議題のうち、まず意見書案第7号出産育児一時金の増額を求める意見書を起立により採決いたします。本意見書案については、原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、意見書案第7号は、原案のとおり可決されました。

次に、意見書案第8号選択的夫婦別姓制度の法制化に向けた議論を求める意見書を起立により採決いたします。本意見書案については、原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

全員起立であります。よって、意見書案第8号は、原案のとおり可決されました。

日程第30. 意見書案第9号

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第30、意見書案第9号新型コロナに対する国民健康保険の傷病手当金の支給拡充を国の制度として求める意見書を議題とし、提案理由の説明を求めます。田口澄雄君。

○議員（6番 田口 澄雄君）

日本共産党の田口澄雄です。意見書案第9号新型コロナに対する国民健康保険の傷病手当金の支給拡充を国の制度として求める意見書案について、提案理由を申し上げます。

新型コロナウイルスに国民健康保険の被保険者が感染し働けなくなった場合、現在は被用者、つまり給料をもらっている人のみ、国の制度として財政支援がありますが、個人事業主や家族専従者、フリーランスの被保険者は、この対象になっていません。不公平ではないかとの声もあり、国会では、市町村長の判断で専決処分することは可能であるとの答弁もなされています。

しかし、この場合には国の財政支援はなされず、各自治体の独自の財政負担で実施をしなければなりません。

全国的には被保険者からの強い要望もあり、今年の6月末の時点で15の自治体が、事業主への実施がなされています。

新型コロナウイルスという天災での状況下で、収入の道を絶たれて困窮している状態は、加入している保険制度にかかわらず、共通する問題ではないかと思われます。

国は、事業主の収入減少の累計が多様であることから、所得補填額の算定が困難として、実施しない理由としていますが、現に実施をしている自治体では、独自の算定方法を決めて支給をしています。

新型コロナも長期化し、その影響も大きくなっています。早急に国の制度として、事業主や家族専従者、フリーランスへの拡充を求めます。

以上、議員各位の賛同を求めます。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

お諮りいたします。ただいま議題となっております意見書案第9号については、委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認め、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(中野 勝寛君)

討論なしと認めます。

これより、意見書案第9号新型コロナに対する国民健康保険の傷病手当金の支給拡充を国の制度として求める意見書を起立により採決いたします。本意見書案については、原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立)

○議長(中野 勝寛君)

起立多数であります。よって、意見書案第9号は、原案のとおり可決されました。

日程第31. 意見書案第10号

○議長(中野 勝寛君)

次に、日程第31、意見書案第10号沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋め立てに使用しないよう求める意見書を議題とし、提案理由の説明を求めます。柴田芳信君。

○議員(5番 柴田 芳信君)

日本共産党の柴田芳信です。意見書案第10号沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋め立てに使用しないよう求める意見書の趣旨説明を行います。

さきの第2次世界大戦において、沖縄戦では一般市民を巻き込んだ悲惨な地上戦が行われ、多くの尊い命が失われました。

糸満市摩文仁の平和記念公園内にある平和の礎には、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられた方24万1,593名の氏名が刻銘されています。

糸満市摩文仁を中心に広がる南部地域には、1972年の本土復帰に伴い、戦争の悲惨さや命の尊さを認識し、戦没者の霊を慰めるために、自然公園法に基づき、戦跡としては我が国唯一の沖縄戦跡国定公園として指定されています。同地域では、沖縄戦で犠牲を強いられた県民や命を落とされた兵士の遺骨が残されており、戦後76年が経過した今でも戦没者の収骨が行われています。

さきの大戦で犠牲になった人々の遺骨が入った土砂を埋め立てに使用することは人道上許されません。

よって中間市議会は、下記の事項が速やかに実現されることを強く要望するものです。
記。

1、悲惨な沖縄戦の戦没者の遺骨等が混入した土砂を埋め立てに使用しないこと。

2、日本で唯一、住民を巻き込んだ苛烈な地上戦があった沖縄の事情を鑑み、戦没者の遺骨収集の推進に関する法律により、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施すること。

以上、議員の皆さん方の賛同をお願いし、趣旨説明を終わります。

○議長（中野 勝寛君）

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

お諮りいたします。ただいま議題となっております意見書案第10号については、委員会の付託を省略したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認め、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

討論なしと認めます。

これより、意見書案第10号沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋め立てに使用しないよう求める意見書を起立により採決いたします。本意見書案については、原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立）

○議長（中野 勝寛君）

起立多数であります。よって、意見書案第10号は、原案のとおり可決されました。

日程第32. 意見書案第11号

○議長（中野 勝寛君）

次に、日程第32、意見書案第11号コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書を議題といたします。

お諮りいたします。本意見書案については、提案理由の説明を省略することにしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

ご異議なしと認め、提案理由の説明を省略することに決しました。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（中野 勝寛君）

質疑なしと認めます。

お諮りいたします。ただいま議題となっております意見書案第11号については、委員

会の付託を省略したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(中野 勝寛君)

ご異議なしと認め、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(中野 勝寛君)

討論なしと認めます。

これより、意見書案第11号コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書を採決いたします。

お諮りいたします。本意見書案については、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(中野 勝寛君)

ご異議なしと認めます。よって、意見書案第11号は、原案のとおり可決されました。

日程第33. 会議録署名議員の指名

○議長(中野 勝寛君)

これより、日程第33、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第85条の規定により、議長において安田明美さん及び柴田広辞君を指名いたします。

○議長(中野 勝寛君)

以上をもちまして、今期定例会に付議された案件は全て議了いたしました。

よって、令和3年第6回中間市議会定例会は、これにて閉会いたします。

午前11時48分閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する

議 長 中 野 勝 寛

議 員 安 田 明 美

議 員 柴 田 広 辞

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する

議 長

議 員

議 員